

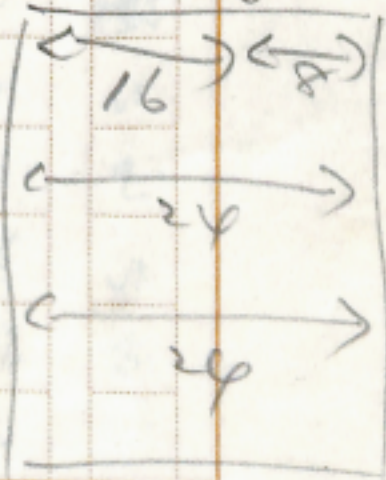
83

芥川龍之介

渦状星雲の在りたる人間の透視図

1 西岡光秋詩集の「かたつぽ」評

木津川昭夫



西岡光秋氏の「新詩集」の「かたつぽ」は、才気

煥然たるこの詩人の現代の力才の中から放つ

左、渦状星雲の在りたる人間の透視図の詩集である。西岡

氏の「前詩集」菊のわかれは忘れ難い名散文

詩集の「氏の自然見」としての奔放な魅力と、

民俗学的視点の深さがあつた。是れに對して

「かたつぽ」の作品は、氏のいう「生きた透視

する魂の律動」へあつかひあり、今日の

あつてはき自在な詩の形と、内的充溢を錢の如

鏡を魅了する。

西岡氏は戦中戦後を生き、戦争を度きあつ

てきた世代に属するが、是の苦澁を抱えた作

品「骨」の「左」は跳び箱「吊旗」が巻頭に

並ぶ。「跳び箱」は国民学校で跳び箱を跳ん

で転倒したことを千一にしてきた詩人が、是の